

国税庁長官賞

税金が地球を救う

新潟大学附属長岡中学校

三年 後藤 苺瑚

「明日も猛暑日となる見込みです」

ニュースで毎日のように耳にするこの言葉。今年も七月中旬ごろから暑さの厳しい日が続いている。このような暑さの原因は、やはり地球温暖化なのだろう。人間のせいで地球の環境は変わり、地球は死にかけているのだ。地球を救うために、私たちは何をすることができるだろう。

二〇一五年十二月、フランスのパリで開催された国連気候変動枠組条約締約国会議で、温室効果ガス排出削減のための国際枠組みとしてパリ協定が採択された。それを受けて、日本は脱炭素社会を目指し、二〇五〇年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにすることを目標として定めた。

そこで導入されたのが、環境税の一つである「地球温暖化対策のための税」だ。平成二十四年から施行されたこの税制は、石油・天然ガス・石炭などすべての化石燃料に対し、環境負荷（CO₂排出量）に応じて負担を求めるものだという。この税金によって、CO₂の排出削減や人々の温暖化対策への意識向上が期待できるほか、税収を省エネルギー対策や再生可能エネルギー普及などに活用することで、将来的により高いCO₂削減効果も見込まれるらしい。私達が納めた税金が、地球規模の環境問題の解

決につながるのだ。

今までの私にとって税金は、私たちの教育費や医療費など、生活に直結するところで使われる身近なものだった。しかし調べてみると、税金は私たち人間によって壊された地球の環境を取り戻すという、大きな役割をもっていることに気付いた。今、私たちがほんの少しの税金を払うことによって、未来の地球や、そこに生きる人々や生物の命を救うことができるのだ。

現代社会では、税金に対してマイナスのイメージを持つ人が多い。余計に払わされている、家計の負担になる…。なぜ税金を払わなければいけないのか、払った税金が何に使われるのか。それを理解することができれば、税金に対してマイナスの感情を抱く人も減るのではないだろうか。「地球温暖化対策のための税」が導入されたとき、「また税金が増えるのか」と不満に思った人も少なからずいただろう。それは、この税金が何のために導入されたのかを理解していないからこそ言えることなのだ、私は思う。

今、地球は壊れかけている。それは、人間の勝手な行動によって引き起こされた人災なのだ。責任は人間にある。ならば、私たち人間の手で止めなければならない。そのために行えることが、身近にあるのだから。

さあ、はじめの一步を踏み出そう。未来の地球と、そこに生きるすべての命を守るために。

全国納税貯蓄組合連合会優秀賞

一〇〇〇年前の「卑弥呼」の時代から

一〇〇〇年先の未来まで

長岡市立北中学校

三年 小玉 夢乃

「行ってきまーす。」また今日も平凡な一日が始まった。だが、この平凡な毎日がどれだけ尊い物なのか、この夏、知ることになった。この作文をきっかけに税というものを調べていく中でまず、「税金」というしくみはいったいつから始まったのだろうか。それが最初の疑問だった。税金の歴史をひもといていくと遠い昔、もう千年以上も前の日本に「邪馬台国」という国があつて「卑弥呼」という女王が国を治めていた時代から始まったとある。もちろん「邪馬台国」も「卑弥呼」も聞きなれた名なので急に親近感を覚えた。当時は人々が食糧や絹織物などを年貢として納めた物が日本の税の出発点と考えられていて、その後は時代によって求められる税のあり方も形も変化をしたと思うけれど、千年以上も前から今も続いているのにはきつと訳があると率直に思った。なぜなら、実際に国民の税金に対するイメージは決してよいものではないと推測されるからだ。私自身もこれまでは、税金のゆくえというものを真面目に考えた事がなく、何か買い物をしても必要以上に払っているのではないだろうかときえ思っていたからだ。この機会に両親に税の事について尋ねると税金には約50もの種

類があることがわかり自分が思っていた以上にたくさんあつて驚いた。そしてすべてが安心して暮らすために大切な役割を果たしていた。朝、水道をひねればキレイに浄化された水がいくらでも出て、その水で顔を洗い、料理を作り食べる。そして安全の為に整備された道路を歩き登校し学校で平等に教育を受ける事ができている。病気や怪我の医療費、毎日、大量に出されるゴミの回収。市民の安全安心のための警備体制。言うまでもなくどれも今の豊かな日本の生活には欠く事のできない制度だ。すべてあたりまえのように感じていたが、最近この「あたりまえ」がいつまで続くのか不安になったりもしていた。世界的に大流行したコロナウイルス。その他にも毎年のように日本各地で自然災害が発生し、その都度、国の予算から税金が使われている。今この瞬間でも世界では戦争が行われており、もし日本も巻き込まれたらと考えると資源のないこの国の行く末はいったいどうなるのだろうか。資源に限りがあるように当然、税金にも限りがある。自分の為でなく同じ日本という国に住む誰かのために、私達の両親、祖父母の時代、それよりもっと前からつないでくれた税金という思いやりのバトンのおかげで今、現代を生きる私たちが不自由のない生活ができているのだ。そんなみんなの思いやりを無駄にしてはいけないだろうか。中学生の私達でもできることはないだろうか。これからは、きちんと大切に使用してもらわなければならないと思い私も、大人になったら、未来の人達の為に役割を果たす次につないでいきたいと強く思った。この日本の未来が明るいものになるように願いながら。

新潟県納税貯蓄組合総連合会優秀賞

支え合い

長岡市立青葉台中学校

三年 笠井 瀬南

私の祖父は、北海道の小さな町でひとり暮らしをしています。私
が住む本州からは約八百キロメートルも離れているので、なか
か会うことができませぬ。離れて暮らす高齢の祖父には持病が
あり、最近では歩行も困難になってきているので、私達家族はとて
も心配しています。

しかし、祖父は今の生活に不便を感じる事なく楽しそうに
日々過ごしています。

その理由は、祖父はひとり暮らしだけでも、さまざまな社会
保障や福祉サービス、行政の支援などに支えられているからでは
ないかと私は考えます。

祖父の暮らす町は、人口約三千人。その内三人に一人は高齢
者だそうす。高齢者の人口割合が高いのは日本中の問題です
が、田舎の方がより高齢化が進んでいます。

しかし、どこで暮らしていても、高齢者が平等に受けることが
できる支援やサービスが日本にはたくさんあります。その制度を
支えている大半が税金なのです。

実際に、どのような制度に税金が使われているのか、祖父の身
の回りに焦点を置き調べてみました。

まずは年金です。祖父はもう高齢のため、仕事をしていません。

受給している年金で生活をしています。年金は二十歳以上の加
入義務者と会社が納める保険料に加え、国も税金を拠出して受
給者の暮らしを支えています。もし年金制度がなければ、退職後
安心して暮らすことができないのではないのでしょうか。

次は医療です。私達も病気やけがで病院に行くことはありま
すが、高齢者になるとさらに病院に行く機会が増えるようす。
日本の医療制度も年金と同じように、みんなで保険料を出しあ
い、国からも補助金が拠出されています。病院を受診した時の負
担額が一〜三割の支払いで済むものも、この制度があるからで
す。海外ではこの制度がない国も多く、治療代や手術代なども
すべて自己負担のため、高額な請求になるようす。

年金や保険の他にも、冬の除雪や道路の整備、地域のコミュニ
ティ作りなども祖父の暮らしにとっては重要で、これらも税金で
支えられています。

高齢者だけではなく、私たちの暮らしの中でも、ゴミ回収や救
急・消防、公共施設の管理や上下水道の整備など、例を挙げて
もきりがいいほど、税金は身の回りで使われて、なくてはならな
いものばかりです。

私達の暮らしを税金が支え、その税金はみんなで支える。たと
えひとり暮らしでも安心して毎日が過ごせるのは、日本で
はみんなで支え合う文化や、スタイルが根付いているからだと思
います。

税金について改めて考える事で、日本の国の良いところを、た
くさん見つけることができました。税金は、人々が幸せに暮らす
ために集めるお金だと思えます。

新潟県納税貯蓄組合総連合会優秀賞

公共施設のサービスと税金

長岡市立東北中学校

三年 井口 董花

図書館という場所が好きです。なぜなら、今まで何度も助けられたことがあるからです。小さい頃はよく絵本を借りたり、習い事の帰りに待ち合わせをする場所として使っていました。最近では、定期テストの勉強場所に利用しました。長岡の公立図書館は全て税金でできています。図書館の居心地がいいのは館内の空調が利いていたり、机やソファがあったり、困ったことがあった時に何でも聞ける司書さんがいるからだと感じています。心地のよさを作り出している建物の建設費、内装家具、そして、働く人たちのお給料、これらはすべて税金が使われているのです。貧富の差がなく、お金を持たない小学生や中学生でも気軽に利用できるのが図書館の一番の良さです。入館料を払わずに利用できるのは税金のおかげです。図書館法第十七条に「公立図書館は、入館料その他図書館資料の利用に対するいかなる対価をも徴収してはならない。」とあり、いわゆる「図書館無料の原則」に基づいているからです。そのほかにも私たち子どもの目には「タダ」と映っている施設がたくさんあります。図書館だけではなく、コミュニティセンター、児童館、公園など無料で利用できます。しかし、それらは全て税金によって利用できているものでした。

公立図書館のように、国や都道府県、市区町村などが、住民

のために提供する場所を公共施設と言います。公共施設は多くの人の生活や安全のために必要とされる施設です。税金でできているからこそ、全ての人の財産であるため、施設や本などをより一層大切にしなければいけないのです。

夏休みに、「税金で買った本」という漫画を読みました。そこには、図書館で借りた本をなくしたり、汚したり、破ってしまった場合には弁償しなければならぬと書いてありました。図書館の本は自分のものではないので本に直接書きこみをしたりすると図書館の人に大きな迷惑が掛かります。大切にすれば、紙の本が十年も二十年も持ちます。紙の本の情報がまた誰かのもとに届くように、私も借りた本は大切になくしたりしないように扱っていきましょうと思います。

私たち中学生は消費税という形で税金を払っています。私の家族は直接住民税や所得税を払っています。時には、税金が高いと言っていることもありますが、その税金のおかげで学校に通えたり、いろいろな公共施設を利用できていることが分かりました。税金が高くなることで生活が苦しくなることもあります。その一面だけではなく公共サービスや公共施設の維持に税金が使われていることを理解することが大切だと思います。今回税金について調べて、納税の重要さに気づきました。税を正しく理解し、充実した日々を過ごしたいです。私もいつか税金を納める時が来たら、周りの人や未来の人々のためになると思いながら納税したいと思います。

新潟県納税貯蓄組合総連合会優秀賞

未来を繋ぐ税金

長岡市立大島中学校

三年 神保 和奏

私が税金について知っていることは、道路、水道、電気などを作ることに使われたり、公務員の方々のお給料になるということぐら이었다。しかし、税について調べているうちに、様々なことに使われていることが分かった。その中で、特に興味を持ったのは、少子高齢化に対して使われていることだ。現在、日本人の平均寿命が40年間の間に10歳も延び社会の高齢化が進んでいる。一方、将来の働き手となる子供の出生率は急激に減少している。少子高齢化の問題の1つとして社会保障費が増えていくこと、もう1つの問題としてその費用を負担する働き手が減っていくことだ。高齢者の急増にもない、医療や介護などの社会保障費が増加することが予想される。しかし、その費用を負担する働き手が少ないと、一人ひとりの負担が大きくなる。老後を安定した暮らしにするためには大きな費用を必要とするが、その財源の中心となっているのが税金である。1990年、1人で高齢者1人を支えていた。2020年には1.9人、30年後には1.35人が高齢者1人を支えていかなくてはならない。私の祖父母も高齢で認知症状もみられ、病院や福祉施設などを利用している。はじめは両親で介護をしていたが仕事や家事などと両立することが大変になり、祖父母の生活面も考えて今に至っている。私達の家庭だけでな

く、他の家庭でも同じ様な状況があれば、介護施設などに頼らざるをえないと思う。そう考えると介護職員ももっと増やしていかなければならないし、施設もたくさん必要になってくる。高齢化だけでなく少子化も大きな問題だ。現在日本の子供出生率は1.34人だ。原因の1つとして、2、3人の子供をもつことをためらってしまう社会状況があることだ。養育費や教育費がかかり、負担になってしまうことがある。「2人で働けばなんとかなる。」と思っても、両親がどちらとも仕事中には、子供をどこかに預けなければならぬという問題も出てくる。これを解決するためにも、税金で安心して生活を送れる社会を作っていかなければならない。このようなことから私は、1つ目として高齢者の方々が自立して健康に過ごすことができる期間を長くすること。つまり、健康寿命を延ばすことが重要だと考えた。これにより、医療や介護に関わる税金を減らすことができる。2つ目にしっかりと選挙に参加することだ。自分たちの納めた税金の使い道を決める、とても重要なことである。最後に、預けられる保育施設を増やすなど子供を産みやすく育てやすい環境を作ること、それと同時に子供たちの教育費削減を目指し子供たちが過ごしやすい環境を整えること、将来の税金の担い手を増やしていくことも忘れてはならない。私自身も税金のことを良く考え、より良い社会生活を送れるように、将来の日本のために大人になったらしっかりと税金を納めていきたい。

長岡税務署長賞

くらしに活きる税

長岡市立関原中学校

三年 寺塚 芽生

一冊一二〇〇円。受験勉強に使う参考書を書店で買うとき、手にとった値段に私は高いと感じました。月に一三〇〇円お小遣いをもろう私は、勉強のためにそこまでお金をかけるのはもったいないなという気持ちでした。

その時ふと、「教科書は無償」ということを思い出しました。教科書は一冊に必要な内容から例題、ポイントまでたくさんのが詰まっています。とても便利なものです。私の買った参考書よりも内容が幅広いうえにお金がかからないのは、考えてみれば目覚ましいことです。

教科書だけでなく、私たちの学校では、学校の机や椅子、実験道具、パソコンなどあらゆるところで税金が使われています。これらに使われる税金は、一年間で中学生一人当たり約一〇〇万円にもおよびます。税金がなかったら、この多額の費用を個人で負担することになります。だから何気なく学校で使っているものが、税金によって私たちの学びを支えてくれることに感謝すべきだといふ心から思いました。

このように「税金」が社会に役立つものは他にもたくさんあります。道路や橋、公園、ごみ処理施設の設備など身近なところで私たちの暮らしを支えてくれています。これも税金がなければ、

橋や道路が壊れても修理してもらえず、通行の際に危険を伴います。ゴミ収集車も来ず、ゴミが街にあふれ不衛生になります。税金がなくなるだけで暮らしの大切な土台が欠け、様々な支障が生じます。私は考えるだけでも、こんな世の中になってほしくないと思います。

令和元年、消費税が十パーセントに引き上げられました。主に、年金や医療など社会保障の財源確保のためだそうです。これにたくさんの方々が不満が出ました。私も当時、「えー、まじか。」と思いました。よく考えればそれは、いまの日本の現状が厳しいという合図であり、国民が寄り添うべきことを示しているんだと気づきました。この気づきに応えるべきです。

国民一人ひとりの消費税が国の貴重な財源となります。ですが、今もなお消費税に対して、「なぜ高齢者のために働いている側がお金を払わなければならないのか」「自分のためになるわけでもないのに」と不満を持つ人がいます。いつかは誰しも自分に消費税が役立つときが来ます。自分には関係ないのではなく、今の世の中に向き合い、今後の自分や国のためにも社会に貢献すべきだと思えます。

税金は、私たちの暮らしを支え、世代をつなぐ架け橋です。税金の偉大さを今一度知り、感謝しながら暮らすとともに、今後の日本に期待を抱くべきです。私も、税金で学習できることに感謝して学校に行きたいです。そして、消費税を払うことで国に貢献することを誇らしく思おうと心に決めました。

長岡税務署長賞

感謝すべき税金

長岡市立越路中学校

三年 藤澤 煌太

僕は今、何事もなく学校に通えている。机や椅子はもちろん、教科書も自分のものがある。授業を受けるのは当たり前権利だと思っていた。しかし、当たり前前に授業を受けることができない、そもそも学校に行けない国の人もいることをテレビを見て知った。

そこで、なぜ他国の人は学校に行けないのか調べたところ、アフリカの子どもたちについての話を見つけた。アフリカでは、新型コロナウイルスによる学校閉鎖に加え、親が学費や交通費を払えないこと、貧困によって児童労働を余儀なくされていること、結婚を迫られたり生理用品を買えないといった理由で女の子が中退していることなど様々な要因で約六七〇万人が学校に行けていないそう。さらに、今年六月には、東アフリカのウガンダという国で学校襲撃が起こり、生徒が少なくとも三七人死亡したというニュースを見つけた。襲撃と聞くだけでも恐怖でしかないが実際に起こっていることに驚いた。最近では一九〇の国と地域で子どものために活動するユニセフが目指す「子どもにやさしい学校」というのがあるそうで、目に見えるものから長く時間がかかるものまで、子どもたちが安心して学べるように、地域の人々と支援活動している。

今自分たちが当たり前のように学校に行けて友達と会えているのは当たり前幸せではないことに気づかされた。また、その幸せは「税金」のおかげだということにも気づかされた。「税金が高くなる」というニュースをよく耳にし、税金は悪いものだという印象だったが僕たちの生活を支えている「なくてはならない存在」だと学んだ。報道では、「税金が高くなって生活が苦しくなる」という悪い面を強調するのではなく、「身の周りから国をよくしていくものだ」という使い道を強調すればよいと思う。国は「使い道」は国民が納得するようなものにしていく責任が非常に重いとも感じた。最後に、今回の作文を通して一つ思ったことがある。僕は今まだ将来の夢が決まっていないが、いつかは誰かのため、国のために役立てるよう、今できる勉強・努力をしていきたい。世界には色々な環境で暮らしている人たちがいて、今こうして当たり前のように勉強をできていることもまた「税金」によって支えられていることに感謝し、将来、自分自身がしっかりと納税して日本を支える一員になれるよう、まずは第一志望校合格を目指して頑張りたい。

長岡地区納税貯蓄組合連合会 会長賞 最優秀

税に関心を持って生きる

新潟大学附属長岡中学校

三年 笹川 桃花

今年、私は子宮頸がんのワクチンを受けた。正直私は注射をするのが嫌いだ。病院のにおいや雰囲気も苦手でなかなか足を運ばずにいたが母親に「将来のために不安が少しでもなくなったら方がいいよ。」と説得され嫌々受けに行った。しかも三回も受けなくてはいけないことが嫌だった。注射が終わりしばらく休んでから受付へ行くと支払いもなく帰っていいという。子宮頸がんワクチンは小学六年生から高校一年生であれば無料で受けることが出来ること知った。対象期間が過ぎてしまうと自費になってしまうらしい。後で調べてみると自費だと種類にもよるが五万円以上するようだ。そう言えばコロナのワクチンも支払いはしていなかった。赤ちゃんの時にもたくさん受けた予防接種（記憶にはないが…）もほとんど公費だったらしい。病院へ行くくと無料で予防接種を受けられるのであまり気にしていなかったがこれまでにかなりのお金がかかっているに違いない。これらの費用は国や自治体からの税金から補われている。体調が悪くて病院へかかった時の支払いも保険料や税金等から出されている。私たちが健康に生活していくためには今ままであまり気づかなかったが多くの税金が使われているのだ。

税について気になったので、どのようなものがあるのか調べてみ

た。国税と地方税合わせて約五十種類もあるとわかった。税の種類で言うと世界で二位らしい。普段生活する上で物を買ったときに消費税が十%かかるのは体感していたがこんなにたくさん種類があるとは思わなかった。それらはいつ、どこで何%かかっているのか正直よく分からなかった。子供のうちはあまり税金を払う機会は少ないが、大人になると様々な種類の税金を払わなければならないのできちんと勉強して、くるべき時に備えて知識を得たいと思った。

私たちが健康で豊かな生活をしていくためには税は欠かせない。赤ちゃんで生まれた時から高齢になるまでどんな人でも公共のサービスや施設を受けられる。中学生の生徒一人あたりの年間教育費は約百二十二万二千円だそう。学校の校舎や教科書も税金によりまかなわれている。新潟県では冬の道路の除雪にも使われている。これは本当に幸せなことだと思う。人は一人で生きていけない。お互いが支えあって生活する上で税は上手く機能している。

だが、最近では税にも問題がある。それは少子高齢化で一人の高齢者を支える働き手が少なくなってしまう。

納税は国民の義務の一つだ。税の問題の為にもこれからきちんと税を納めたい。さらにどのように使われているか関心を持つことが大事だと思う。これから先の未来も考えて税と関わってきたいと思う。

新潟県長岡地域振興局長賞

大人からの「期待」

長岡市立江陽中学校

三年 福本 雫

約百十二万二千円。これは何の金額だろうか。これは、私たち中学生一人当たり、一年間にかかる教育費である。驚くほどの金額である。この金額は税金によって賄われている。

私は今まで、税金について深く考えたことがなかった。買い物に行くと取られる消費税は面倒だと思っていたし、何のためにあるのだろうと思っていた。しかし、今はそう思わない。なぜなら、税金は私たちの生活になくてはならないものということが分かったからである。

もし、税金がなかったら医療費だって、教育費だってものすごく高くなってしまふ。それに、図書館などの公共施設がなく、信号や標識などの安全に関わるものがなくなってしまふ。つまり税金は大切なのである。

また、世界の子供の約五人に一人にあたる三億三千万人近くの子供が学校に通うことができている。日本では学校に行くことは「当たり前」のこともかもしれない。だが、世界では「当たり前」ではない。学校に行くことができるのは幸せなことで、「当たり前」ではないのである。

「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」全

ての教科書に記されているこのメッセージが、教育にたくさん税金が使われている理由の答えだと思う。今の日本を担っている大人たちから、未来の日本を担っていく私たちへの期待が、教育のための税金に込められている。

では、大人たちの期待に応えるためには何ができるのか。それは、教科書などの物を大切に扱うことだ。よく、教科書に落書きをしている人を見かける。今までの私なら何とも思わなかった。だが、今は違う。教科書に落書きをしているということは、教科書を大切に扱っていないということになる。つまり、期待に応えられない人を見かけたら、注意できるようにしていきたい。

私たち中学生が、唯一納めることができる「消費税」。私は、消費税を嫌がらず、協力的に納めることが、大人への恩返しになるのではないかと考えた。そして、税金を納めることができるようになったら、協力的に納めて、未来の子供たちにいい教育を受けさせられるように、また、社会に貢献することのできるようなよき納税者になりたい。そのために、今は精一杯勉強し、大人の期待に応えられるようにしていきたい。

長岡市長賞

私たちの幸せのために

長岡市立西中学校

三年 山田 乙葉

私は、税金は幸せな日常生活を送ることに、欠かせないものだと思う。

たしかに税金が、生活を苦しくする原因の一つだということも分かる。実際、私自身税金が増えるというニュースにうんざりしたりしたことがあるからだ。一つ百円のものを買うために、百十円と十円も多く払わなければいけないのか…と思う。でも、周りを見てみると、中学生の日常では税金がつかわれている物事がたくさんある。

例えば、校舎やプールなどの施設だ。校舎は言わずもがな私たちが学習することにおいて必要だ。校舎だけではなく、いすや机などの道具、教科書やノートなどの学習道具と学校で生活するうえで大切なものはすべて税金がつかわれている。私たちがちゃんとした学習ができるのは、税金があるからなのである。

そして他にも税金は私たちが不自由をしないようにつかわれている。道路の整備、信号だったりだ。もしも道路が整備されていなかったら、もしも信号が設置されていなかったらと考えたら恐ろしいものだ。もしそのような状況があったとしたらたくさん事故が起きてしまう。たくさん死人がでてしまう。そして莫大なお金がかかってしまう。このような最悪な状況にならないよう、

私たちは税金に守られているのだ。それに、道路の整備というと新潟にかかせないのは除雪だ。除雪が行われることでそこまで苦勞せずに道を歩くことができる。不自由という観点に注目してみると、ごみの処理もそうなのではないだろうか。近年、地球温暖化が問題視されているが、ごみが処理されないとそれ以前の問題だろう。きつとごみが処理されないと地球温暖化だなんだといわれる前に地球は壊れているだろう。このように私たちは日常生活において不自由をしないように税金に守られている。

最後に私は税金によって将来の安全が保障されていると思う。高齢者が安心して暮らせる施設やサービスには税金がつかわれているからである。例えばコロナウイルスのワクチンでは高齢者が優先してワクチンを受けれるようになっていた。このような、将来に対しての安心要素は税金によってつくられているのではないだろうか。

このように私は、税によって生きやすい世の中が保障されていると思った。よって税金は幸せな日常生活を送ることに、欠かせないものなのである。

出雲崎町長賞

支えられていること

出雲崎町立出雲崎中学校

三年 岡田 陽

私たちの身の回りには、税金で支えられているものがたくさんあります。その裏で一生懸命働いて、税を納めてくださっている人々の姿もあります。一生懸命働いても税金を納めなければならなかったため、手元に残るお金が少なくと不満をこぼす人も少ないとは言えないでしょう。

両親は、会社を経営しているため、法人税を納めなければならぬ、とよく話しているのを聞いています。その時は、まだ私は税金の仕組みや、何税があるのかを全く知らず、税に自分の生活やたくさんの方面で支えられていることを知りませんでした。社会の授業で税金の仕組みや税の種類について学んだ時、両親が法人税について話していることを思い出し、税金について調べようと思いました。そこで、自分に直接関係する税、地方税の一種、住民税について調べました。

先程言った通り、住民税とは、地方税の一種であり、都道府県が課税する都道府県税と市区町村が課税する、市区町村税の総称です。教育、福祉、救急、ゴミ処理などの、地方自治体が提供する公共サービスをまかなうために使われます。

私の住んでいる町では、この住民税のおかげで、医療機関や、病院を受診しても、子供はお金がかからない制度になっています。

病院を受診する時、無料だとお母さんはいつも助かると言っていました。私もそれを初めて知った時、とてもありがたいと感じました。

では、この世から税金が無くなると社会や環境はどうなってしまうのか。納税をしなくて済むから、モノが安くなり、家庭で使えるお金が増える……とはなりません。救急車を呼んでもお金を払わなければ運んでもらえず、道路の信号もついていなければ、道もボロボロ。ゴミ収集車が来ず、街がゴミだらけ、災害の被害にあっても助けしてもらおうサービスはすべてお金がかかるし、公共サービスも無くなってしまいかもしれません。一生懸命働いたり、税を納めてくれる人々がいるおかげで街はとても綺麗で、私たちの暮らしは豊かになっているはずですよ。

税金を納めることの重要性や大切さとは、人々や自分の暮らしを豊かにすることができるといえることだと思います。そして、税の種類やその税がどこでどのように使われているのかを知ることが、とても勉強になるし、どれだけ税が、この世の中を豊かにして、自分の生活を豊かにしているか、実感ができると思います。

長岡地区租税教育推進協議会 会長賞 優秀

税金によってもたらされる快適な生活

長岡市立北辰中学校

三年 阿部 風沙

「消費税が上がるって何？」二〇一九年十月、消費税が十パーセントに引き上げられる、というニュースを見て、当時の私を感じたことです。インターネットで調べてみると『社会保障・福祉、公的サービスを運営するための費用である』ということが書かれていました。しかし、小学生だった私には難しく、理解することができませんでした。それでも何かを購入した際には、商品の値段に消費税を上乗せして払わなければいけないということはわかっていました。そのため、消費者の立場としては不満を感じることはありませんでした。そして今回、今まであやふやなままでいた税金について「租税教室」で詳しく学ぶことができました。

税金は主に「公共サービス」「社会資本の整備」の二つを支える役割を担っています。公共サービスとは教育や医療、警察などのことです。具体的には学校で使っている机や椅子、教科書などは税金によって賄われています。医療では風邪をひいたり、怪我をしたりして病院で手当てをしてもらう際、お金がかかりますが、かかった金額の一部には税金が使われています。警察ではその都度、直接お金を支払わなくても地域の安全を守ってくれます。税金があることで、私たちはこれらの公共サービスを受け、快適に過ごすことができます。

社会資本の整備とは、道路や上・下水道の整備のことです。道路や橋を作ったり、壊れた際にすぐ修理したりしてくれます。また、上・下水道が整備されることで、蛇口をひねれば水道から清潔な水を手に入れることができます。つまり、税金があるからこそ、私たちは何不自由なく生活することができるのです。

このように、私たちが健康で豊かな生活を送るため、よりよい社会を作っていくためには、税金が使われます。個人や企業の力だけではなし得ない「公共サービス」「社会資本の整備」を実現させるために、税金を払っているのです。つまり、税金は私達の生活に必要不可欠な存在であると言えます。

今回の授業を通してこの事実を知り、私の税金に対するイメージが大きく変わりました。今まで、税金が上がっても日常生活の中で恩恵を肌で感じるものが少なく、払ってばかりのように思うことがありました。しかし、舗装された道を通り、橋を渡り、エアコンの効いた中で学習できること。そして事故や火事の際には助けをもらうことができる安心感。「恩恵を肌で感じるものが少ない」ということは、「税金によってもたらされる、安全で快適な生活が当たり前になっている」ということを意味しているのだと気づきました。これからは、国民が互いに支え合い、共によりよい社会を作っていくための税金であることを忘れずに、きちんと納めていきたいです。

公益社団法人長岡法人会賞

大切に

長岡市立旭岡中学校

三年 関口 実澄

私たちは、義務教育で日々学校に通い、集団行動だったり知識だったり礼儀だったりを身につけている。

そんな私たちにとって大切な学校。その学校は税金によって運営されている。最近、税金について学ぶ機会があった。それによると、教科書や机、校舎の建設や修理など、全てが税金によってまかなわれているらしい。私は親の学校へ払っている積立金の明細書が学校から配られるたび、「小中学校無償化」ということについて疑問を感じていた。しかし、それとは比べものにならないほどのお金が動いていて、ケチケチ言うのは違うと考えさせられた。学校にお金をかけず簡単に通えていることによって、初めに書いたような人としての基本的なことだったり、理想的な生活習慣を身につけたり、一般的思考を知ったりなど、「大人」に段階的に近づいていくことができる。では、自費で学校に通っていたらどうだろうか。経済力のある家庭なら、「学校に行って、良い職に就く」という素晴らしいサイクルができるだろう。しかし、経済力のない家庭は学校に通えず、良い職にも就けず、かえるの子はかえると言ったふうな悲しい負のサイクルができあがってしまう。産まれた瞬間から格差が生まれてしまう。私たちは税金で莫大なお金をかけてもらうことによって、平等な生活が送れるようになって

ているのだと思う。こういった最悪の状況を考えたら、教育を受けられることに感謝しなければならぬと思つた。

また、学校はたくさんのお金の払った税金によって成り立っている。小学生のころ、「親の払った金でできているのだから何してもいいだろ」という発言をたびたび耳にした。しかしよく考えてみると、親の払った税金だけで運営されている訳ではないのだ。直接的にその教育関係の恩恵を受けない納税者がたくさんいる。どちらかと言えば親世代ではない人の方が多だろう。彼らは未だの社会を担うであろう私たちのために投資してくれている。

また学校での出張授業や校外学習などはボランティアの方によって支えられている。

こんなにも私たちが平等に高度な教養を身につけられるように多くの人が関わり、そして助けられている。

だからこそ、その整った環境に感謝し、一つずつ一つずつ大切に活用しなければならぬと思う。

関東信越税理士会長岡支部長賞

あなたのお金が命を救う

長岡市立東中学校

三年 田中 絢菜

忘れもしないあの日。私は救急車という乗り物に一生乗らな
いと思っていた。目に見える赤いライト。心配する両親の声。なん
といても心強い救急隊の皆さんの顔は今でも鮮明に覚えている。
二年前の夏の暑い休日。セミの鳴き声が外から聞こえてくる
中、私は初めての中学校生活に慣れず頭を抱えていた。進路の
進みが早い学習や部活動での友情関係、自分の思い通りにいか
ず、

「自分なんてだめなんだこの世に必要ないんだ。」
薄暗い考えに気が病み、自分が嫌いになっていく。急に襲う激し
い頭痛、それと同時に息がだんだんと荒くなる。初めての経験で
心と体がうまく連動しない。そう私は過呼吸になっていたのだ。
家族が急いで通報し、あつという間に家の前でサイレンを鳴らし
た救急車がきた。救急隊の方々が総合病院への配慮ややさしく
声をかけてくださったおかげで私は命に別状もなく一命をとり
とめた。もし、救急車が存在していなかったらと考えると血の気
が引く。

現在、日本では救急車の出勤回数が年間約七〇〇件までのば
っている。行政サービスの一環である救急車は救急隊の人員費や
救急車のガソリン代、緊急車内に設置されている医療機器など

の費用は全て市区町村などの自治体の税金が使われている。一
回の救急にかかる費用は大体四万円程、年間約三千億円が使
われている。あれから父は口ぐせのように、

「本当に税金を払ってよかったです。」

と言う。もし救急の時税金がきかなかつたらどうなっているのか
気になり、私はインターネットで検索してみることにした。エンタ
ーキーを押すと同時に私の目の前に表示された画面は実におど
ろくものであった。それは一回の利用料を救急隊に先払いしなけ
ればならないという内容であった。利点はあるのかと疑問に思い
下へスクロールしてみると、アメリカ救急車税金一切負担なしと
いう記事が出てきた。内容を読んでみると、自分の健康は自分で
守るものだから税金には頼らないという内容であった。私はこの
記事を読み、町中に貼ってある本当に緊急ポスターを思い出した。
このポスターは近年日本でむしろ刺されなどの軽症や病院を待ち
たくない等の理由でタクシー代わりに救急車を呼ぶ人が増加し
ている問題を改善させようと発布されたポスターだ。税金によっ
て助けられている命は山程ある。しかし自分の払った税金が望む
べき物に利用されなかった時あなたはと思うだろう。

税金は私達の暮らしを豊かにするため、大切な命をみんな
で繋ぐ必要不可欠なものだ。税金がないと不便になり、税金を無
駄に利用するとバランスがとれなくなる。だから今、私達が税金
について理解を深めなければならぬのではないか。私達は社会
をになう、未来の一人だから。

長岡地区納税貯蓄組合連合会 会長賞 優秀

皆で、手を繋いで

長岡市立寺泊中学校

二年 五十嵐 千聖

誰もが安心安全に暮らすことができる『理想の街』。それは、どんなものだろうか。

「税金って、面倒だよなあ」

そんなことを考えたことが、誰だっと思う。私もその例外ではない。買いたい物の定価に、その定価の十パーセントを足す。暗算が苦手な私にとって、その作業は煩わしいものだった。

私は、レジで戸惑うことが多々ある。定価に消費税を足すことで、値段がキリの悪い数字になること。それが主な原因だ。

消費税の計算で小さなミスをした時、想定していなかった分の小銭を財布から取り出すことになる。そこで時間を使ってしまうのだ。

店員さんや後ろに待っている人の時間を奪ってしまった、と思うと少し憂鬱な気持ちになる。だから私は、レジが少し苦手だ。

ある日、親とスーパーで買い物をした。すると、レジの列に並んでいる時に、こんなやり取りを目にした。

レジで会計をしているのは七十代くらいのおばあさん。小銭を出すのに戸惑っているようだった。

「ごめんなさい、ゆっくりで」

小さくそんなことを言いながら、慣れない手つきで財布を漁るお

ばあさんに、店員さんは言った。

「いいんですよ、ゆっくりで。私だって、よくありますし」

店員さんにはにっこりと笑った。自分に向けられた言葉ではないのに、その言葉は私の心を動かした。

その時に、気付いた。皆、一緒なんだな、と。

私も、おばあさんも、店員さんも、お金を使って生きている。ものが必要だから、私はお金を払う。そのお金を得るために、店員さんは働く。

働いて、得て、払って、得る。生きている限り、皆そうだ。皆、一緒。

お金は、皆が生きるためにある。社会も、皆が生きるためにある。それを支えるのが、税金だ。

その日から、買い物をしている時、両手に誰かの温もりを感じるようになった。皆と手を繋いでいるような感覚だ。

（私がお金を払うことで幸せが増えるんだ）

レジが、好きになった瞬間だ。

誰もが安心安全に暮らすことができる『理想の街』それはどんなものだろうか。

答えは、あなたの、私の、両手にある。

皆、一緒。そんな街を支える税金を、笑顔で払い続けること。それが、『理想の街』づくりだ。

長岡地区納税貯蓄組合連合会 会長賞 優秀

高負担・高福祉

長岡市立秋葉中学校

三年 大崎 杏海

私は世界と比べて日本の消費税は高いのではないかと思っていました。そこで海外の消費税を調べてみると、スウェーデン、ノルウェー、デンマークの消費税率は25%と日本の消費税率を15%も上回っていることが分かりました。また、スウェーデン、ノルウェー、デンマークは北欧の国であり、二〇二三年の世界幸福度ランキングでトップ10以内に入っているという共通点がありました。スウェーデン、ノルウェー、デンマークの三国で幸福度が高いのは消費税が高いことが関係しているのではないかと考えました。まず、幸福度ランキングが2位と三国の中で最も順位が高かったデンマークの税金について調べてみたところ、消費税に加えて所得税は55%、自動車所得税は28%などとても高いなと思いました。しかし、デンマークでは出産費、教育費、医療費、介護費が無料ということを知り、驚きました。子供達の学費や老後の心配もなく暮らせることが幸福度が高い理由だと分かりました。

次に幸福度ランキング6位のスウェーデンの税金も医療、教育、福祉など、人々の生活の質を向上させるために重要なものも多く使われていると分かりました。だからこそ、負担が大きくても、国民が不満を抱かず、幸せに暮らせるのだなと思いました。また、「税金」はスウェーデン語で「skatt」と言い、この単語には「宝

物」という意味もあるそうです。私は税金の使い道について、あまり理解しておらず、プラスのイメージを持っていなかったけど、税金は私達の豊かな生活を保障してくれる「宝物」のような存在と考えれば、少しは良い印象をもてるなと思いました。

最後に、幸福度ランキング7位のノルウェーは日本と同じく高齢化が進んでいるけど、税金を高く設定することで高齢者向け社会保障サービスを充実させ、高齢者の社会参加を促す取り組みも行っていることを知りました。若い世代だけではなく、高齢者にも優しい国なので老後も穏やかに過ごせそうだなと思いました。

このように、税金が高い国では高負担な分それと同等、またはそれ以上のサービスを受けられることが分かりました。日本も税金が高い国ですがその税金がどこでどのような目的で使われているのが少し不明確な感じがするので、北欧の国々の良い所を真似して、日本の幸福度がどんどん上がると良いなと思いました。今後、私が日本以外に住むとしたら、デンマークなどの北欧に住んで老後まで豊かに暮らしたいです。